



めざせ! One大阪 維新タイムズ

平成29年
Vol.3
新春号

大阪維新の会
発行 大阪府議会議員団
<http://osaka-ishin.jp/>
〒540-8570
大阪市中央区大手前
2丁目1番22号(大阪府庁内)
TEL (06) 6946-5390
FAX (06) 6946-5391

箕面市・豊能町・能勢町選出
大阪維新の会 大阪府議会議員

うえしま かずひこ

上島一彦の

府政報告

上島府議は、箕面市・豊能町・能勢町から地元要望を受け、諸課題の解決に、真正面から取り組んでいます!



箕面ブランドのさらなる進化を図る

- 北大阪急行線の延伸は、上島府議が倉田箕面市長と共に、松井知事への直談判を行った結果、府が100億円を負担することが決まり、平成32年度の開業に向けて着々と工事を進めています。
- 箕面森町では、住民意願のスーパー・マーケット誘致が決まりましたが、地区センター前の信号機設置を府警本部に要望しています。箕面グリーンロードで、ひと月8,500円(普)の定期券を継続すると共に、本年秋以降、距離制導入により、片道料金を値下げする予定です。
- 箕面市立小中一貫校「彩都の丘学園」の用地を倍に拡張、学校前の警察官立ち寄り所の整備と共に、周辺のパトロールを強化します。
- 箕面ドライブウェイの、正月や紅葉シーズン等における、交通渋滞の解消策を図ります。
- 大規模災害に即応できる大阪消防庁の実現に向け、府内消防の一元化を図ります。また、維新府議団から知事に呼びかけ、昨年12月、消防団の活性化に役立つ「地域防災基金」を、府で新設しました。



豊能町の交通利便性を快適に

- 豊能町のバス交通を便利にするために、昨年6月、希望ヶ丘と千里中央を結ぶ北大阪ネオボリス線の、箕面グリーンロード経由便の運行を実現しました。箕面森町線のときわ台駅への延伸は、現在、阪急バスとの間で、実現に向けて協議を進めています。また、本年6月までに、国道477号線・吉川交番の移設と、右折レーン設置の交差点工事を完了する予定です。
- 国道423号線・川尻の狭隘区間(約300m)の道路拡幅・歩道設置工事は、昨年5月に完了しました。
- 老朽化した光風台駅前エスカレーターの更新、地域防災行政無線の整備、府の土砂埋立規制条例による指導強化、新光風台近隣の太陽光パネル設置に対する行政指導等が、上島府議の助言により、確実に行われています。

能勢町の魅力あふれる教育環境を整える

- 定員割れが続く、府立能勢高校を存続させる方法について、能勢町への移管や、他の府立高校の分校とする等の案がプロジェクトチームで検討された結果、平成30年度から、府立豊中高校・能勢キャンパスとして、新たなスタートを切ることになりました。昨年開校した能勢町立の小中一貫校「能勢ささゆり学園」と共に、小中高一貫教育の取り組みを進め、英語教育や地域人材の育成等、能勢の子ども達にとって、魅力あふれる教育環境を整えて参ります。
- 府道の補修工事、除草、冬季の凍結防止等の維持管理については、地元事業者による包括管理制度を導入する等、効果的な対策に取り組みます。



昨年4月に発生した、新名神高速道路建設中の事故現場を検証。
箕面IC(止々呂美)で仮設台転倒、有馬川橋で落橋事故が発生。
新名神は今秋、高槻~川西間が部分開通、来春は神戸まで全線開通の予定です。



「冒険の森inのせ」橋下知事時代、上島府議の尽力により、大阪府から能勢町に無償譲渡された「旧・府立総合青少年野外活動センター」が、昨年7月に、大型アスレチック施設「冒険の森inのせ」として復活。大自然の中で五感を使う、ツリートップアドベンチャーは、最高の体験!



うえしま かずひこ
上島一彦のプロフィール

生年月日 昭和33年7月生まれ(57才)
卒業校 大阪教育大学附属池田小・中学校/雲雀丘学園高校/早稲田大学
経歴 メンズ衣料品メーカー専務/(社)箕面青年会議所理事長
箕面ロータリークラブ会長
議員歴 箕面市議会副議長/大阪府議会議員3期/関西広域連合議会理事

■府政に関するご相談やお問い合わせは 〒562-0003 箕面市西小路2-8-20
大阪維新の会 大阪府議会議員 TEL (072) 723-6469
FAX (072) 723-6612

うえしま かずひこ
上島一彦事務所まで ueshiba-jimusho@kiu.biglobe.ne.jp
<http://kaz-u.com/>

上島府議は、関西広域連合議会の理事として、2025年大阪万博の誘致実現に向け、関西全体の機運を盛り上げます!

大阪維新の会 府議会議員団

**2025年 大阪万博で大阪の成長を
「人類の健康・長寿への挑戦」をテーマに
経済波及効果は6兆円!
大阪から世界へ日本の魅力を発信!**

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続く国家プロジェクトとしてわが国の成長をけん引する大イベントとしての期待が膨らみます。
大阪維新の会府議団も開催実現に全力で取り組みます。

「2025日本万国博覧会」基本構想 府が案をまとめる

(10月28日)

- 人類社会の発展に貢献する“新しい国際博覧会”を
- 2025年に再び大阪の地で、次の50年に向け、
- 人類の課題解決策や新たなライフスタイルを提案へ

テーマ案の考え方

世界中の人々が、健康にかかる様々な課題を克服し、よりよい生活を送ることができるよう、その先にある「人生90年時代」における新しい生き方や社会・都市のあり方、その広がる可能性について、世界から知を集め、新たなモデルとして広く世界に発信することで、未来社会に向けた行動を呼びかける。

「健康」を次世代へとシームレスにつなぎ、次世代を担う若者への明るい未来のメッセージとする。

「参加・体験」によって“人類の健康・長寿への挑戦”に向けた行動を呼びおこす「交流の舞台」。「世界規模での挑戦、変革を誘発する万博」をめざす。

主要な施設・事業の展開イメージ

- テーマ館
- 公式参加国等パビリオン
- 日本ゾーン 一健康長寿社会をつくる日本からの提案ー
(展示例) 滞在型究極健康ハウス
~健康・長寿に挑戦する日本の未来技術を体験~



開催経費（試算額）

民間投資を呼びこむアイデアを募るなど、新たな発想・手法による多様な民間資金の活用を模索

会場建設費 1,200～1,300億円程度 運営費 690～740億円程度

※過去の事例等を参考に算出

開催期間 2025年5月～10月を核とした期間（6か月）

入場者想定規模 3000万人以上 開催主体 政府が認めた法人等

開催場所 大阪市臨海部の「夢洲」を想定

民間投資を呼びこむアイデアを募るなど、新たな発想・手法による多様な民間資金の活用を模索

会場規模

万博会場として約100haを想定

IRを含む夢洲まちづくり構想の進展の状況を踏まえ、具体的な区域設定や利用計画を検討。

輸送・宿泊計画

- 地下鉄中央線（北港テクノポート線）の延伸に伴う夢洲駅（仮称）からのアクセスを軸とし、主要駅や会場周辺に設ける駐車場からのシャトルバスを運行。
- 来場者の宿泊は、府域と近隣府県市の宿泊施設の活用により対応。



(大阪市港湾局提供)

環境への配慮

- 万博会場づくりでは、自然環境等に十分配慮した会場整備や環境の負荷の少ない施設整備を推進。
- 日本発・世界初をめざした最先端の技術・ノウハウを結集し、持続可能なまちを実現する。

国際社会・参加国への効果は

- 国際社会へ健康についての課題解決策を提示
- 参加国の文化・技術・メッセージを世界に発信する機会創出 など

開催国（日本）への効果

- 国際的地位の確立（ジャパンブランドの確立等）
- 2020年オリンピック後の経済成長の維持発展 など

開催地への効果

- 副首都・大阪の発展に寄与し、東西二極の一極として、日本の成長をけん引
- 府民の健康の向上

全国への経済波及効果 約6.4兆円

- 需要（入場者の消費や建設費）2.3兆円 ● 間接的（新商品の開発や普及など）4.1兆円

府議会が万博誘致推進を決議

(11月4日)

11月4日、府議会は、2025年国際博覧会（万博）の大阪誘致を推進する決議を可決しました。
「大きな経済効果をもたらすとともに、全世界に向けて大阪・関西の存在感を示す絶好の機会にもなる」としています。

松井知事、吉村大阪市長、経済団体が 基本構想案を国に提出

(11月9日)

11月9日、松井知事は、万博基本構想案を世耕経済産業大臣に提出しました。同大臣は「オールジャパンで取り組む」と述べ、国として実現を目指す意向を示しました。

また、同日、府と大阪市、関西広域連合、関西経済3団体は「2025日本万国博覧会誘致委員会」の設立に向けた準備会を開催させました。



万博開催までのスケジュール

2016年 12月16日

國の検討会が初会合

国が基本構想案を審査

2017年 春

閣議了解

2017年 5月22日までに

博覧会国際事務局（BIE）へ登録申請（立候補）

BIEによるヒアリングや視察

誘致活動

2018年

BIE総会で開催地決定

基本計画策定、会場起工

2025年

開催